

## 〔小学校〕次年度に向けての課題・改善点(具体的な改善案)

### 学校便りや学級便り・HP等を活用した情報発信、保護者や地域との連携について【27校】

- ・いじめ問題の解決、防止について取り上げ、道徳の学習の様子などを学級だよりや学級懇談会、人権授業公開日を通して伝えていく。(18校)
- ・家庭・地域に向けた効果的な啓発や連携のための工夫(場づくりや方法の検討)
- ・連携に関しての取組は行われていなくはないが、発信が中心で一方通行的になりがちである。また、保護者会等はわずかな人数の参加しかなく、よりよく連携できたとはいえない。学級だよりでも人権に関する内容として、定期的に発信していく。
- ・学校だけでいじめの問題を解決しようとしているが、地域でトラブルになることも多い。地域の協力も必要。児童の実態について、適切な機会を通して伝えていく。
- ・学校運営協議会では学校の様子をお伝えしているが、より多くの保護者や地域と学校が連携していけるように、ホームページなどを活用して情報発信をしていく。保護者や地域の方と直接会う機会があるときには、積極的に学校の様子を伝える。
- ・情報発信する機会を増やすとともに、ネガティブな情報だけでなくポジティブな情報提供にも心がける。
- ・いじめ問題に限らず、道徳や学活の様子など、子どもたちの様子や学校の取組などを便りでも保護者へ情報発信していく。
- ・学級・学年通信や学校のホームページを通して、本校のいじめに対する取組を家庭・地域に発信するとともに、「いじめの四層構造」などについて共に学べる場が提供できるようにする。
- ・校内委員会で話し合ったことについて、情報提供を積極的に行う。
- ・内容が難しく、発信することに抵抗がある。発信するのであれば、共通理解をもって発信する必要があるため、道徳や人権旬間期間に統一したものを発信することから始める。

### 校内研修会の充実、校外研修会への積極的な参加について【26校】

- ・校内外の研修の実施、参加(17校)
- ・いじめに関する研修を受けた際に具体的な行動目標を決めるようにする。
- ・職員研修として、長期休業中等に校内研修の場を設けたり、いじめ問題に関する資料等を紹介したりする。
- ・校内で事例を取り上げて研修を行うことも考えられる。
- ・時代とともに変化していく様々な事案に対応できるよう、研究会に参加するなどして、自己研鑽を重ねていく。
- ・校外での研修会に参加した際には、校内で伝達する場を設定し情報共有を図る。(3校)
- ・校内研修で、いじめに関する道徳・特活の授業や取組の事例を紹介する。
- ・生徒指導部だけでなく多くの教職員に案内をする。例えば、一度参加したことがある研修に関しては、生徒指導部に聞わず、初めて参加する教職員に優先的に参加してもらう。

### 児童生徒や保護者が相談しやすい関係や環境づくりについて【7校】

- ・アンケート等は活用しているが、さらに普段の子どもたちとの会話を大切に、様子を把握することに努める。
- ・人権意識を高めていく道徳教育の充実。
- ・休み時間や朝の登校時の提出物点検などの時間を子どもたちとの時間にしていこう心がける。
- ・保護者への連絡をもう少し迅速に行うべきだった時があった。「信頼しても大丈夫。」と思ってもらえるよう常日頃から表現していくこと。
- ・教員の人手不足で、目の行き届かないところで問題が起きる。子どもの悩みや気持ちをしっかり受け止める余裕がもてない実情に課題がある。人員増が望ましいが、子どもの心にしっかり寄り添う共通認識が必要。また、ゆっくり時間をとって話す機会を設けることが課題。
- ・担任に余裕がなく、ゆっくりと何でもない会話をする時間がとりづらかった。担任以外でも相談しやすいように、保健室や職員室、校長室などの扉を開けて、在室している大人がいるようにする。
- ・普段の業務に追われ、落ち着いて相談を聞くことや、聞く環境を作れていない。教育相談等は希望制を取り入れ、担任に固定せずに、多くの教職員で対応する。

### アンケートQUや生活アンケート・教育相談等によるいじめの早期発見・早期対応について【5校】

- ・アンケートQUをもっと活用したい。各学級の児童の様子が全教職員で共通理解されていない。気になる子を確認し(要支援群にいる児童)する。
- ・児童の実態によって、アンケートQUや学校生活アンケートだけでは把握が難しいと感じることもある。日々細やかな児童との関係づくりをしていく必要がある。
- ・QUやミニアンケートをさらに活用していく。
- ・アンケートQUなどを行ったあとにできるだけ早く個別の教育相談の時間をとる。
- ・アンケートQUの更なる有効活用の在り方の検討。

### いじめ解消後の見守り、校内での情報共有について【5校】

- ・いじめ・問題行動等事案の迅速な共有、継続的な見守りと事後対応の充実(共通理解)
- ・いじめ問題を今後の児童への指導へ生かすため、今年度の様子や対応について、新年度に確実に引き継ぐ。
- ・気になる児童については、声かけをするように意識しているが、もう少し全体で情報共有をしてできることを考えていく。
- ・職員への周知が遅れがち。解決してなくていいので、現在進行形で知らせていく。

・いじめに関わる生徒指導ではなくても、生徒指導職員会は各学年から数名ではなく、全教職員で時間を割いて大切にすべきである。前期生徒指導の会の持ち方の検討。

### **その他の意見等**

- ・いじめの未然防止のための教員による積極的な見守り、見回り指導。今年度名前があがった児童が一目でチェックできるように一覧表で用意しておく。
- ・組織的という部分において、複数名と一緒に顔を合わせて、いじめの認知や今後の対応について協議する時間を短時間でもよいので、もう少し増やしたい。事案の校内での情報共有をもっとすると、全教職員で対応できる。
- ・年度当初にいじめ防止基本方針をもとに共通理解を図る。よりよい人権教育(人と自分を大切にすること)を全教育活動の中で行うための組織づくりを行う。
- ・3学期は次年度への引継ぎを丁寧に行いたい。
- ・教職員間の情報共有の場をより積極的に設けたい。
- ・現在全くできていないわけではないので、どの問題に対しても自分たちの問題としてとらえられるように、発達段階に応じて粘り強くアプローチをしていくよう学校全体で取り組む。事案の大小にかかわらず、「いじめ」問題として子どもたちに伝えていく。
- ・いじめ事案が起きた際、チームで適切に対応できたが、全職員での共通理解が遅れることもあった。学校いじめ防止対策委員会等で話し合った情報は、迅速に全職員で共通理解・指導できるようにしていきたい。
- ・一つの事案に対して、校内で共通理解する場を一度きりではなく、定期的に継続してもつようにし、現状や変化も教職員、また関係者で共有するようにする。
- ・四層構造の理解を促す研修を実施する。